

第 10 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 平成 27 年 5 月 28 日 13:30～16:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2015」(以下、戦略プラン)を受けた NDF 業務方針・計画について

NDF 事務局より、戦略プランで示した、燃料デブリ取り出し工法の方針決定や廃棄物の処理処分に関する基本的考え方を今後数年で提示していくことについて、NDF 内の中期計画と課題ごとの目標・手段を示した。またその中より今年度の目標を示し、課題解決の手段の一つとして廃炉等技術委員会や新たに設置が決まった廃炉研究開発連携会議を活用していくこと、また個別の課題に対応する各技術検討集団の目的と課題解決への体制等が紹介された。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 中期的な目標・計画として絵姿を共有できるように、また手段が目標ととられないような記載に修文されることを望む。
- 廃炉等技術委員会の中で「共有されている問題」を解決するための計画をぜひ示していただくとともに、その中でデータのアーカイブについては他機関と重複をしないように、また NDF として残していくべき知財はしっかりと残していかれることを願います。
- 中・長期的な要員の強化計画を期待する。またその新たな計画は職員への教育も含めたものとして継続的に考えることを期待する。
- 廃炉研究開発連携会議に関して、新たな会議体を作り適切に推進していただくことは勿論だが、単なる調整や情報共有だけではなく、重複を省く等、研究開発コストの合理化や効果的な執行を行うとともに、相乗効果が出せるような研究項目の束ね方の明示等、国民に対する責任を果たし、福島継続的なリスク低減に向けての活動を望む。
- 基礎・基盤研究の分野については、過剰な管理を避けるなど新しいアイデアが出やすい仕組みを心がけ、課題解決に将来重要な寄与を果たす可能性のある基礎・基盤研究も重視し、一元的に整理していくことを絶えず考えて実施していただきたい。
- 各課題に対する体制について、東京電力の現場の情報を日々取り入れることのできるような体制、例えば日々発生する廃棄物や各号機の情報等の状況を適宜取得できるような連携体制であることを望む。
- リスクの評価については、現状ではある時点でのスナップショットであるため、今後の時間軸上のリスク変化や管理すべき重要な点をまずは共有し、その上で課題についてこの場で議論できるよう検討を願います。
- 課題解決の検討結果は、最終的には東京電力が実施することになるため、ある程度定量的な目標であることを望む。また、廃棄物についても数年後に基本的考え方を提示するには、検討結果を段階的に

しかるべきところに提示していけるよう、現場の情報を取り入れながら検討を実施すること。

2. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力より下記の通り説明があった。

- リスク総点検の現状の結果としては、リスク源の洗い出しとそれらが顕在化する経路や現場作業の洗い出しを分析し、190 項目を整理した。対策実施の有無、優先順位を確認し順次対応している所である。
- 情報公開については、東京電力の WEB ページにて、まずは全ての情報を公表することを開始しており、説明が必要なデータについては、定例の記者会見等で PDF 資料を配布し、解説を実施しているほか、月に一度程度の頻度で直近の推移を説明することとしている。
- 建屋への地下水流入を防ぐ対策を様々実施しており、地元の関係組織にも継続して説明等を行っている。現在そのうちのひとつである凍土壁について、試験凍結を実施しているところであるが、凍土壁内部の井戸の水位も継続的に監視し、その推移を有識者も含めて共有・検討し、今後も本凍結に向けて着実に進めていく予定である。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- リスク源の一つである使用済燃料プールについて、建屋等バウンダリーの健全性、安全設計の確認を継続的に実施されるとともに、地震のような災害に備えた検討も適切に実施していかれることを望む。
- リスク総点検ということできっかりと洗い出しをされたことは評価に値する。マクロ的な面で、もともとサイトにあった放射性物質の量と現状タンク等にある量との比較から、まだ今後アクセスが必要となる格納容器や圧力容器の内部にどの程度残っているかを推定するためにはデータが少ないと思われるため、ミクロな視点を持ちサンプル等の分析の面で各研究機関との協力を、設置が決まった廃炉研究開発連携会議等を活用して実施していかれるとよいと考える。

3. その他議題

NDF 事務局等より、以下の事項等について説明があった。

- 中長期ロードマップ
- NDF 廃炉支援部門の最近の活動
- 今後の廃炉等技術委員会等のスケジュール

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 作業員の被ばく総線量については、もともと大量被ばくが考慮されていない前提があるため、作業員個々人の被ばくが過剰とならないよう東京電力としては対応について、サイト内の取り決め等の運用を検討して頂きたい。

以 上